

特 集

特集

1 コウノトリのヒナ誕生と野外定着を目指して

県では、コウノトリを自然再生のシンボルと位置付け、自然環境の保全・再生を推進し、コウノトリの野外定着を目指して、兵庫県との共同研究により、兵庫県立コウノトリの郷公園から、つがいのコウノトリを借り受け、平成23年12月から越前市白山地区において飼育・繁殖に取り組んでいます。



親鳥と今年生まれの3羽のヒナ

1 地元の取組み

地元の越前市白山・坂口地区では、飼育開始以来、コウノトリが安心して過ごせるように、有志が集まって「コウノトリ見守り隊」を結成し、毎日午前と午後の2回、飼育しているケージ周辺の見回りを行い、見学者への対応を行っています。

また、コウノトリが営巣していた豊かな自然環境を取り戻そうと、無農薬無化学肥料による米づくりの推進、段差のある水田と水路を生き物が行き交うことができるよう水田魚道の整備、水田に水がない時期でも生き物が生息できるよう退避溝の設置など、環境に配慮した様々な取組みが実践されています。



自然再生の取組みを視察する各国研究者



水田魚道



無農薬無化学肥料による米作り

2 本県で50年ぶりのコウノトリのヒナ誕生

地元や多くの方の温かい思いを受け、親鳥のつがいのふっくとさっちゃんは、平成24年、25年と続けて産卵しました。残念ながら無精卵でしたが、兵庫県立コウノトリの郷公園の協力で他ペアの有精卵を譲り受け、親鳥に抱卵させる方法により、平成26年6月、3羽のヒナが誕生しました。コウノトリのヒナの誕生は、昭和39年、小浜市国富地区で最後にヒナが確認されて以来、本県では50年ぶりの誕生となりました。



ふ化直後のコウノトリのヒナ

3 コウノトリこどもフォーラムの開催

ヒナの誕生を受け、コウノトリの生態やコウノトリが餌とする身近な生き物の保全・再生について考えようと、平成26年8月17日にサンドーム福井において、「コウノトリこどもフォーラム」を開催し、コウノトリをきっかけに活動に取り組む越前市、小浜市、そして兵庫県豊岡市の子どもたちによる発表や意見交換を行いました。

発表では、越前市白山・坂口地区で活動する「坂口エコメイト」の子どもたちが、無農薬の米作りやビオトープ整備など、実践して



コウノトリに関連した活動発表を行う
小浜市国富小学校の子どもたち

いる保全活動を紹介。活動を中断すると再び荒地となり、生き物が生息できる環境に戻すまでには時間がかかることが発表されました。また、小浜市国富小学校の子どもたちは、かつてコウノトリが生息した小浜市国富地区について歴史を勉強し、現在の環境について知るため、生き物調査を行うなど、再びコウノトリが生息できる環境について地域と一緒に取り組んでいることが紹介されました。

発表に先立って、本県出身で（公財）東京動物園協会 葛西臨海水族園園長の田畑直樹氏は、「小さな生き物からコウノトリまで」と題して講演され、コウノトリが生息できる環境を取り戻すためには、身近なところには多くの動植物が生息していること、また、この動植物のことをもっと知ることが大切であることを、参加した子どもたちへ話されました。

同日は、夏休み期間ということもあり、多くの親子が参加し、子どもたちの発表を聞いたり、里山里海湖研究所、自然保護センターおよび海浜自然センターが設けた、身近な生き物展示ブースや工作体験ブースで様々な体験を行ったりしました。

このほか、越前市白山地区からは、無農薬無化学肥料の「コウノトリを呼び戻す農法米」で作ったおにぎりや地域で生産している「白山すいか」の振舞いがあるなど、参加者は夏休みのひとときを楽しんでいました。



田畑直樹氏による講演



体験活動を楽しむ子どもたち

4 ヒナの成長と愛称の決定

現在、3羽のヒナは親鳥と同じ大きさまで成長し、越前市菖蒲谷町に新たに設置した第二ケージで飼育を行っています。

3羽の幼鳥には、県内外から応募があった202点の愛称の中から、県内在住の親子10組による親子選考員や、越前市白山地区の地元代表者等の選考を経て、「げんきくん（オス）」、「ゆうきくん（オス）」、「ゆめちゃん（メス）」の愛称が決定しました。



コウノトリの幼鳥
(足環黄：ゆめちゃん 足環青：ゆうきくん 足環赤：げんきくん)



幼鳥の愛称選考における最優秀賞および親子選考員賞の受賞者

5 コウノトリの野外定着を目指して

かつて本県に営巣していたコウノトリですが、再びコウノトリが舞う地域を目指そうという気運が高まっており、越前市で「コウノトリが舞う里づくり推進協議会」、小浜市で「コウノトリの郷づくり推進会」が設立されました。また、コウノトリの飛来が多い若狭町鳥羽地区では巣塔が整備され、コウノトリをきっかけとした活動が少しずつ広まりを見せています。

本県生まれのコウノトリが再び大空を舞い定着することを目指して、県では県内の自然環境の保全・再生活動を一層推進していきたいと考えています。

2 SNSを活用したゴミ拾い活動の推進

県では、日常生活の中で楽しくできる気軽なゴミ拾い意識の向上を図るため、普段評価されることの少ない県民一人ひとりの自主的なゴミ拾い活動を、SNSを活用して情報共有することで見える化したホームページ「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」を平成26年9月に開設しました。

このホームページでは「ピリカ（下記参照）」を通じて報告のあった清掃活動のうち、県内の清掃活動のみを抽出し、活動者数や拾われたゴミの数、活動状況をリアルタイムで表示しているほか、県内の清掃活動情報や各都道府県ゴミ拾い状況ランキング、「ピリカ」を活用して清掃活動を行った企業や団体を掲載しています。平成27年1月現在、平成26年4月からカウントしている県内活動者は延べ11,500人、拾われたゴミは270万個にも上っています。

このホームページを通して、県民の手で福井県がきれいになる様子を発信し、「福井しあわせ元気国体・大会」が開催される平成30年には、どこに行ってもゴミのないきれいな福井県を目指して、ゴミ拾いという社会貢献のつながりの輪を広め、いつでもどこでもできる気軽なゴミ拾い活動の定着を図っていきます。



県内の清掃活動見える化ホームページ
「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」

クリーンアップふくい 検索

ゴミ拾いアプリ「ピリカ」とは

「ピリカ」とは、ゴミを拾って、写真に撮り、スマホやパソコンで「ピリカ」に送るだけで、世界中にゴミ拾いの様子を発信できるサービスです。平成27年1月現在、「ピリカ」を通じて世界72ヶ国で約1,100万個のゴミが拾われています。



活動者が「ピリカ」を利用すると、各々専用のページが自動作成され、清掃活動の記録や集計に利用できるほか、SNSを通じて自分たちの活動の広報・PR等情報発信するとともに、世界中の活動者から“ありがとう”やコメント等で、活動に対する反応を得ることができます。

◆企業団体活動者専用のページ